

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271101885		
法人名	医療法人 啓生会		
事業所名	グループホーム モン・サン琴海 「1ユニット」		
所在地	長崎県長崎市琴海戸根町713		
自己評価作成日	令和5年11月12日	評価結果市町村受理日	令和6年3月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和5年12月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周囲は自然に囲まれてゆっくりとした環境の中で利用者様に寄り添う事が出来る事業所であり利用者様との日々目標としてイキイキとした生活を送って頂けるように敷地内に畑や花壇を整備し充実した生活の支援をお手伝い生活をより良いものいしたいと考えています。また、母体が時津にある清水病院である為365日24時間体制で医療に関わる不安について相談できる環境下である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、静かな内海に面しており、豊かな自然を望める場所にある。理念「あきらめないをサポート・楽しく・優しく・元気よく」を掲げ、職員は支援に迷った時の道標としている。コロナ禍により、外部との交流を自粛しているものの、認知症サポーター養成講座やオレンジカフェ等には積極的に参加し、地域交流を行っている。職員の意見は、リーダーを通じ管理者へ届く他、法人理事長との年3回の能力開発面談では、目標を掲げ自己研鑽に励んでいる。福利厚生が整い働きやすい職場環境から、職員の心にゆとりが生まれ質の高い入居者支援に繋がっている。毎日の介護記録は、事務の合理化を視野に入れながらも、詳細な変化が読み取れる丁寧な記録である。食事は旬の食材や魚料理を多く取り入れ、お節も職員総出で作る等、食事が楽しみの一つとなるよう取り組んでいる。入居者の言葉を傾聴し、思いを実現することで、楽しく生活して貰えるよう、チームワーク良く、理念の実践に努める事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が周知していると思われませんが人間的な問題があり、理念がおろそかになっている事がある。	理念は事業所各所に掲示し、職員は念頭に置いている。新人職員は、法人研修他、先輩職員見守りのもと、業務の中で経験を積みながら、理念の理解に努めている。職員は、入居者が出来そうな事、やってみたい事を探し、出来る限り叶え、入居者が一日でも長く、楽しく生活できるように、理念を共有し、具現化に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	個人、施設としての日常交流は出来てないが中学校との暑中見舞い年賀状のやり取りは行っている。	コロナ禍により、外部との交流は自粛しているものの、近隣小学校の3年生を対象とした認知症サポーター養成講座に管理者が参加し、高齢者への理解を広める等、地域交流を行っている。また、近隣中学生との年賀状や暑中見舞いハガキのやり取りもあり、今後も継続し、交流を絶やさないよう取り組んでいくこととしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域とのそのような活動は行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス流行の為に会議が開催できてない。	コロナ禍により、近年は2ヶ月毎の書面による運営推進会議を行っており、入居者情報や“ヒヤリハット”“感染症”“身体拘束・虐待”の委員会活動等、報告している。また、写真を添えて、火災訓練他、畑の花壇づくりや収穫を行う入居者の様子を伝えている。ただし、議事録送付は行政のみであり、家族への公表がない。	運営推進会議で、報告される事業所の取組みを多くの家族と共有し、意見、要望を聞き取り、その意見を事業所の運営に活かすことが望まれる。次年度、対面での運営推進会議の際の工夫に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	個人としての連携は出来てないが施設としては積極的にではないが連携している今後も協力関係を図っていく。	事故報告や認定調査等の書類提出は、事務局が行政へ郵送や窓口での提出を行っている。担当職員の訪問もある。包括支援センターとの連携が多く、認知症サポーター養成講座に管理者が参加したり、オレンジカフェに職員とその子供が参加する等、協力関係を築いている。行政主催の研修に職員がオンラインで参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について基本的な知識は委員会を通じて勉強会を行い職員全員が周知していると思います。	身体拘束適正化の為に指針を整備し、年2回研修を行っている。2ヶ月毎に委員会を開催し、不適切と思われる言葉遣いや態度、時事ニュースを課題に上げ事例検討し、職員に周知している。職員の気になる言動には、管理者が注意喚起している。夜間はセンサーマットを使用せず、職員見守りで、拘束のない支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会や外部での勉強会に参加して虐待のない、見逃さない環境を作っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事務所ではご家族との連携しているが職員とは連携が取れてなく学ぶ機会や接する機会は少ない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所後のご家族様からの不満などの声は聞かれないので十分に伝えていると思います。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	全職員はご家族様からの声を連携しておりその後利用者様の生活に反映されていると思います。	事業所への苦情や相談窓口は契約書に明文化し、契約時に、家族に説明している。家族の意見は、面会時や電話で聞き取っている。管理者、ケアマネジャーは、毎月訪問している成年後見人と情報共有している。家族からは、写真記載や趣味の継続等、入居者からは、家族との面会の調整や買物の要望があり反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	出来る出来ない事はありますが職員の声は事務所がよく聞いていますがリーダーを通すことによって不満の声がある。	職員は、日頃から管理者に要望を伝えている。また毎月の職員会議、リーダー会議では、職員が活発に発言している。以前、シフトについて希望が通りにくいという意見があり、職員を増員し、職員の負担軽減に繋がった事例がある。また、理事長と能力開発面談を年3回設けており、キャリアアップの道筋を明確にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人間的に難しいなかよく頑張っていると思います。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	力量の把握は出来ていると思いますが法人内外の研修やトレーニングでの進め方はあまり行われていなく個人に任せている部分も大きいと思われる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現状はあまりできていないが最近zoomにて勉強会に参加がっています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面談にて本人様の状態や要望等を事務所から確認し各職員に伝達出来ている入所後は職員が行い事務所やご家族へ伝達出来ている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記と同様で行われていると思います。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族様の要望等があったさいには出来る事を寄り添うように努めてます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護を必要とされている事に対しては少し考えが欠けている部分がある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの様子や状態を必要に応じてご家族様のへ伝えておりホームでの生活が快適になるようにお互いに努力しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現状まだ出来ていない。	入居時に生活歴について聞き取っており、新人職員が入社した際は、生活歴等を把握する時間を設けている。趣味の編み物を続けたり、家族との手紙のやり取りをしている入居者がいる。また、家族から畑仕事が好きだとの情報を得て、菜園を始めた事例もあり、これまでの生活習慣を尊重し、支援していることが窺える。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各フロアーの入居者様関係性は把握していると思うが入居者間で補えない部分は職員が補うように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホーム退所後ご家族様より要望があれば応じますが現状そういった要望はあってない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向の全てを把握できているとは思えないが入居者様の声に対しては各職員が傾聴を行いその都度伝達周知を行っている。	職員は、常に入居者の言葉を傾聴するよう心掛けている。思いを話したいような様子の時は、他の職員と連携を取ったり、訴えの少ない人にも言葉掛けを多くし、スキンシップを図っている。今年度は「どんなことでも、入居者のできることを探そう」を目標としており、拘縮の可動域を広げる運動を日々実践し、本人や家族に喜ばれている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	各個人の生活歴、入居前の生活などの把握は少々出来ていない。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝夕の申し送りにて各利用者様の状態等の共有は行えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ややマンネリ化はあり職員からの意見も少ない現状が見受けられる。	入居時に管理者と計画作成担当者が、本人・家族に聞き取り、暫定3ヶ月の計画を立て、本計画に移行している。日々の記録は、ケアプランと連動し、丁寧に観察を行っていることが窺える。短期3ヶ月、長期6ヶ月で全職員にてモニタリングしている。職員からは、計画に対する報告や意見が出ている。家族には毎回説明し、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各職員の気づきをリーダーに伝えそれを事務所に相談、連絡といった流れがあるが流れが滞る事が時折見られる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望に対してははその都度連携を行い出来るだけ応じるようにしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自立支援を念頭に置いてご本人様の自発的な動きを見守りや案内を行いながら支援を行っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回清水病院の訪問診察を受けているが必要に応じて他の病院への受診介助も行っていきます。	入居者は基本的に母体である医療機関をかかりつけ医としている。他院を希望する場合は、家族での対応となる。月2回、ユニットごとに医師が訪問しており、眼科、歯科、皮膚科は基本的には家族での対応としている。看護師も週2回訪問しており、適切な医療が受けられる体制を整備している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師同士の連携についてはわからないが、介護職員と看護師との連携はとれていると思います。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はホームより利用者様の情報を提供を行い退院時は病院より入院中の情報の提供が行えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期はご家族様と医療と話し合いを行っている。	法人の方針として看取りは行っておらず、入居の際に重要事項説明書において説明を行っている。食事が摂れない、入退院を繰り返すなどの場合、本人の状態を見て医師から家族に数回に渡り、説明を行い、殆どが母体である医療機関への移行となっている。退所時は医師が職員に向けて説明を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルはあるが職員全員が実施できるかはわからず訓練も出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	避難訓練の実施はできており避難場所、消火器のある場所の把握はできている。	訓練は、毎月実施しており、避難、通報、消火と毎月内容を変えている。非常食の賞味期限の確認やペットボトルを利用した懐中電灯の体験も行っている。夜間想定訓練は、毎年3月に消防署立会で行っている。ただし、入居者の非常時持出用のファイルの作成が一部に留まっている。	火災等で事業所外に避難することを想定して、消防署員や病院職員、地域住民等、誰もがわかるよう入居者の基本情報等のファイルの作成が待たれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	時と場合によるがそういった意識が薄れている事もある為に注意しながら言葉かけを行っています。	入居者をあだ名で呼ぶことは禁止しており、トイレの失敗時には、「着替えましょう」と声を掛け、自尊心に配慮している。職員からは、守秘義務の誓約書の提出を義務付けている。また入居者の写真を便りやホームページで使用する事について、家族から書面で同意を取っている。介護記録は、外部から見えない棚に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の意思や意向を確認しながらケアを行えるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活動作に関しては利用者様の出来る範囲で対応を行っている希望があったさいはその都度対応を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様によって身だしなみに気をつけているが介助者によっては職員の手助けが必要である。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様によって個人差があるのでお手伝いに協力をしていただいている方は協力していただいておりますが意欲的に低い方が多く感じます。	食事は、法人の栄養士が作成した献立に従って、職員が手作りしている。メニューは、バラエティに富んでおり、父の日母の日は、手作りのケーキで祝ったり、お節は、職員総出で作っている。新鮮な魚を取り入れ、菜園で採れた大根で切り干し大根を作ったり、入居者も味見に加わる等、入居者にとって食事が楽しいものとなるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各個人に合わせた食事提供を行っており摂取量の低下等がおる場合は医療と連携を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立した方へのケアが不足している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄ケアの必要な方に対しては訴えや動きにて誘導を行いオムツの必要、不必要はその都度ケアカンファレンスを行っています。	居室には、トイレを設置しており、夜間帯の入居者の負担軽減になっている。排泄のチェック表を記録し、職員は、一人ひとりのパターンを把握している。職員が、居室で介助する場合は必ずドアを閉め、立ち位置にも配慮している。職員間でパッドの厚さ等を検討するとともに、業者によるおむつの研修を受講し、知識を深めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	現状は行えてない便秘時に腹部マッサージや歩行運動にて対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を行うように務めています但し本人様の希望により入浴出来ない事もあつてます。	入浴の支援は、週2、3回のペースで行っている。現在、約半数の利用者が浴槽に浸かることができおり、介護度の高い入居者には、職員2名体制で介助を行い、シャワー浴を行っている。入浴日以外の日の着替えや手の清拭で、清潔保持に努めている。浴室ではリラックスして、職員に昔の話をする入居者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	付き添いが必要な方には入眠まで付き添いしており夜間の動きや様子は見守っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人の服薬については量が多く全て把握は難しいが新たに処方された薬はその都度確認し状態観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各個人に合わせた支援は出来ていないが全体での楽しみごとの提供を行い笑顔過ごして頂けるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現状は出来ていない。	コロナ禍のため、この数年は日常的な外出支援を控えている。前庭の菜園の手入れや玄関前で焼きいもをして、外気に触れる機会を作っている。花の苗やみかんを買いに出掛けたり、病院受診の行き帰りに季節の花を眺め楽しんでいる。ただし、計画的に外出を実施し、入居者の気分転換を図る取組はこれからである。	外出は、入居者にとって、気分転換や五感を刺激する貴重な機会である。コロナが5類になった現在、外出支援を計画的に実施するよう期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームの利用者様は小銭程度の所持のみで金銭の管理はご家族様が管理しており買い物もされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現状は出来てなくご家族様からの連絡、手紙もない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には問題なく季節的な飾り付けを行い季節的なイベントを開催していく。	リビングは、窓からの眺めがよく、屋外からの騒音もない。高窓で換気を行い、夕陽はカーテンで調整している。壁の季節の飾りや、調理の香りは家庭的である。テレビを2台設置しており、好きな番組を見られるよう工夫している。ゆったりとした時間が流れ、入居者がソファで寛ぐ様子がある。毎朝の清掃で清潔な環境である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自立されている方に対しては本人様にお任せしています介助が必要な方に対しては職員が対応しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様の必要な物はその都度ご家族様相談を行い用意している。	わかりやすいよう、名前を大きく表示している居室があり、自立への工夫がみられる。馴染みの物を自由に持込みができ、椅子やテレビ、ラジオ、化粧品等を置いている。入居者は、好きな時間にテレビやラジオを視聴したり、ベッドで寛いでいる。週1回のシーツ交換と職員による清掃や温度管理で、過ごしやすい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各個人の1日の過ごし方についてはある程度の把握は出来ている為に安全等への見守りは行えているが人材不足のより不十分な点がある。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271101885		
法人名	医療法人 啓生会		
事業所名	グループホーム モン・サン琴海 「2ユニット」		
所在地	長崎県長崎市琴海戸根町713		
自己評価作成日	令和5年11月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和 5年 12月 7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周囲は自然に囲まれてゆっくりとした環境の中で利用者様に寄り添う事が出来る事業所であり利用者様と日々目標としてイキイキとした生活を送って頂けるように敷地内に畑や花壇を整備し充実した生活の支援をお手伝い生活をより良いものいしたいと考えています。
また、母体が時津にある清水病院である為365日24時間体制で医療に関わる不安について相談できる環境下である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新人職員からベテラン職員まで理念を理解し目の付く場所に掲示し実施に取り組んでいる		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍による影響により地域との交流ができなかった。年賀状交流はあり 今後は現状を見通し地域交流を図りたい		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍による影響により地域貢献が出来なかった。今後は、地域住民の方に参加して頂き意見や要望に応じて取り組みを行いたい		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は行われているが取り組みに関して理解及び情報の共有化が出来てないと感じられる時がある		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設内での出来事は、市町村担当者へ積極的に伝え連携が取れている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を活用し問題点を抽出し身体拘束となる行為を理解しケアを行えている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の施設外で学ぶ機会が無く不足と感じられるが注意喚起は出来ていると思われる。更に知識向上に努め虐待防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員がそれらの事業、制度の活用を学ぶ機会が少なく必要性を感じさせない為、個々の必要性を見直し支援していきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	特に利用者や家族等からの不満が聞かれないことから十分な説明が出来ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族から要望、意見があった場合は、それに伴い反映出来ていると思う		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見を聞く機会が少なくまた、職員も意見の発言も出来ていないと感じられる		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者への目標と達成事項を話す機会があるがどのような評価だったのか不明確な部分がある。その為、向上心を持って日々勤務出来ていないように感じる		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修が少なく個人のスキルアップに繋がっていないと思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	サービスを向上させるための段階が出来ていないと感じる 同業者との意見交換交流を望みたい		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様や家族様からの要望を聞き入れ確認を行い不安解消に努めている。より良い関係性を確保し関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	特に問題なく信頼関係は築けていると思う。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要とされる要望を聞きそれに伴って対応を出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々コミュニケーションを取ることでより一方通行にならないように努力しているが無理に押し付けている部分が観られる為、注意喚起していきたいと思う		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様が不安にならないように言葉には気を付けて生活状態を話すように心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	関係が途切れないように言葉かけ時にも工夫して関係構築に努めているが全ての利用者様へ浸透出来ていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の良き関係になるように問題を早期発見し職員間で話し合っ解決している。また職員もレクレーション等を通して努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	その時に応じた対応及び相談や支援は、出来ていると思われる		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	全ての意向の把握は難しいが入居者への傾聴を行い本人本位にて検討して努めていると思う。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活状況の把握は出来ているがそれに応じた対応が出来ていないと感じられる		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	情報を共有しそれに伴い適した無理のない対応を心掛けている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを行っているがマンネリ化している部分が見受けられる またアイデアが出て反映されていない事がある		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で情報は共有されているが報告、連絡、相談が疎かになる事がある。 一部にて自分本位で動くのがみられる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な対応は出来ていると思う。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現状難しいと考えられる		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診察にて対応を行っている。状況変化時は、指示を頂いて共有している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に訪問して頂きその際に、変化があった事の情報交換はできており職員間の共有も出来ている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関とは連携取れている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に関しては、医療機関にて対応を行っている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルがあるが緊急時に対応できるのか不安視あるため訓練を行って実践出来るようにしていきたい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	避難訓練は、実施されており職員も即時対応できる体制が整っている		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	不意にプライバシーを損なう言葉かけを耳にする事がある。 職員同士が注意しなければならない		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるように対応できないことがある。 無理難題など		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活動作に関しては利用者様のできる範囲で対応を行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様によって身だしなみおしゃれを対応している感じが見られる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人差はあるが利用者様へお手伝いをお願いし協力を頂いている。また利用者様からお手伝いの声もあがる時もある		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量が少ない時など職員間で共有を行い言葉掛けや飲水を促す対応を行っている。また確保できていない場合は医療機関へ報告し指示を仰いでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	日々の口腔ケアや口腔内残渣の確認は行っている。歯科も訪問されている。問題がある場合は、職員間で情報共有を行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の動作や時間での対応を行っている。 オムツなどの必要性は、及び変更に関しても話し合いにて対応している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腹部マッサージや歩行運動を取り入れ便秘防止に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の要望や曜日による入浴対応を行っているまた、その都度体調をお聞きし入浴の判断を行っている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	十分な休息を安心して提供できる様に対応を行っている。不眠時の傾向がある際は、申し送りにて報告を行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全ての服薬は把握できていないが追加された服薬に関しては、随時更新し情報共有している。またファイリングも行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	現状出来ていないことが多いがテーブル拭きや洗濯畳などの協力をお願いしている。また花壇や畑作業などの作業を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外への散歩やフロア内であるが移動による気分転換は実施出来ている。 ピクニックができる時期になれば実施したい		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様からの要望には事務所を通して対応できている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をお持ちの利用者様は、支援できている。 電話が掛かってきた際に取次ぎを行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて展示物を利用者様と作成し展示しそれに対して言葉掛けも行っている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内での表情を感知し思いに添った対応を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	必要なものはご家族に相談し持って来て頂き利用者様が安心できるように対応している		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活が送れるようにする創意工夫し安全に生活が送れるように行っている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271101885		
法人名	医療法人 啓生会		
事業所名	グループホーム モン・サン琴海 「3ユニット」		
所在地	長崎県長崎市琴海戸根町713		
自己評価作成日	令和5年11月4日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	令和	5年12月	7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周囲は自然に囲まれてゆっくりとした環境の中で利用者様に寄り添う事が出来る事業所であり利用者様との日々目標としてイキイキとした生活を送って頂けるように敷地内に畑や花壇を整備し充実した生活の支援をお手伝い生活をより良いものいしたいと考えています。また、母体が時津にある清水病院である為365日24時間体制で医療に関わる不安について相談できる環境下である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている	理念の周知や共有は出来ており実践に近づけるように努めている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の影響により地域との交流が出来なかった。年賀状の交流はあり 今後は、現状を見通し地域交流を図りたい		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍による影響により地域貢献が出来なかった。今後は、地域住民の方に参加して頂き意見や要望に応じて取り組みたい		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、行われているが取り組みに関して理解及び情報の共有化が出来ていないと感じられる時がある		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設内での出来事は、市町村担当者へ積極的に伝え連携が取れている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	自立移動の方は、希望等が無い限りご自分で自由に過ごす事が出来ているが自立移動できない方については、本人の訴えが無い限り車椅子、ベッドなどで長い時間を過ごす現状である		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修があり職員は時間を見て参加している様子があり意識している又、委員会活動も行っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員がそれらの事業、制度の活用を学ぶ機会が少なく必要性を感じさせないため個々の必要性を見直し支援していきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	特に利用者や家族等からの不満が聞かれないことから十分な説明が出来ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からの要望、意見があった場合は、それに伴い反映できていると思う		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別や会議に関わらず意見を聞いており反映させようと努めている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績などの評価を受けているが評価などについての明確な周知などは無いので評価がやりがい向上心につながるかは、疑問に思う		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の能力の把握は難しいと思うが職員全体に研修などの周知を行っており機会の確保などは進めてくれている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に勉強会などが案内されており参加は個々の自由であるがサービス向上に向けて努めている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のヒアリングや面談は欠かさず行っており入居者様の情報の共有を図っている。また入居後も出来る限り入居者様の傍で言動を見守るように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との連携については、事務所の方で対応し下さっており職員が直接ご家族様の要望を聞く機会はずくないが事務所を通して確認は行っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来る出来ないシートを活用を行いながらご本人の状況の把握しながら必要に応じ医療や個別リハビリなどのサービスと連携を図っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の能力を見極めながら家事などの活動と一緒に参加してもらえるように努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的にご家族様の意向の確認を行いご本人の意向と合わせ添えるような調整を行っている。現在入居中のご家族様からは不満等の声を聞いたことが無い		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	関係が切れない様に言葉かけ時にも工夫し関係構築に努めているが全ての利用者様へ浸透で来ていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の身体的能力や性質もあり孤立の場面も多くあるがそのような状況に合わせ職員の方から話し掛けるなど他者とのコミュニケーションの機会を増やせるよう配慮している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	その時に応じた対応及び相談や支援は出来ていると思われる		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の言動に対し傾聴や観察を行いその思いなどを汲み取れるように努めておりご本人の状態や状況に合わせ都度カンファレンスなどを行うようにしている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個別のファイルにある程度の情報は閲覧環境になっておりご本人の日々の発言などから把握できる情報などについては、職員間での情報の共有を図っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝夕の申し送りや申し送りを記録に残すなどを行い入居者様の日々の変化を共有できるように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様には意向や要望の聞き取りを行っているが要望などはなく、ご本人も認知症を患っておられるため積極的な発言をされることは少ない為日々の言動でご本人の現状に合わせるように努めている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をケアプランに沿って記録を残しながら変化や発見時などは、申し送りや職員間での口頭で情報の共有を図りカンファレンスに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	菜園や花壇づくりや不定的ではあるが外部からインストラクターの方をお招きし軽い体操などを行って頂いている。必要物品などの購入希望などについてもその時々で事務所と連携を行っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現状難しいと考えられる		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問視察で対応を行っている・状況変化時は、指示いただいて共有している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に訪問していただきその際に、変化があったことの情報交換はできており職員間の共有もできている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と連携は取れている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に関しては、医療機関に対応を行っている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルがあるが緊急時に対応できるか不安視あるため訓練を行って実践できるようにしていきたい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	避難訓練は、実施されており職員も即時対応できる体制が整っている		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の生活を共に過ごすうちに入居者と職員という関係性を逸脱してしまうような場面やプライバシーを損ね兼ねない発言になってしまう事はあるも慢性的ではない		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症のため意思決定が難しい方については、表情や日々の様子からその思いを汲み取れる様に努めており自己決定が決定できる方に関しては、基本的には、本人の意向を尊重している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	意思決定や自立移動の難しい方には、職員の方で対応しているが自立度の高い方については、基本的に自由にして頂きながらその時々で介入を行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の自立については、言葉掛程度の介入を行い自立の難しい方には、職員の方で季節や本人に合わせる選択を行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	主食、副食ともにご本人の状態に合わせ形状を変更し出来る方には皮むきやもやしの根掘りなどの作業もお願いしている。人によっては盛り付けのお手伝いも行ってくださる		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の立てた献立に添って提供も行っており摂取量についても毎食記録に残し変化に気づけている。水分についても提供と摂取状況を都度把握している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立度の高い方や職員の介入を好まれない方については、言葉掛程度で本人にお任せしている。ケアの必要な方については、動作の確認や仕上げまで対応を図っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	立ち上がり立位保持の能力が少しでも残存している方は、職員付き添いを行いながらトイレでの排泄を行っている。失敗の多い方についても誘導の間隔を短くするなどの対応を行っている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の確認を毎日行い下剤服用指示を確認しながら水分摂取への対応や腹部のマッサージを行い腸の動きに働きかけている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に曜日は決めているが、入浴の言葉掛で本人の意向を確認しながら本人の要望に添える様に調整している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自立している方は、昼夜と出ずご本人にお任せしている。職員の介入が必要な方に対しては、日中の覚醒の確認や状態に合わせて休息へ対応を図る		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	目的や副作用などについてすべて把握は出来ていないが必要に応じて確認は行える。服用の際には、職員付き添いにて確認を行っている。本人の状態の変化については、都度ドクターへ相談の出来る環境にある		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	縫物編み物や雑誌を読むテレビを観るなど趣味を楽しまれる方や職員に時間のある時は、散歩などのお誘いし気分転換につなげている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響もあり外出の機会は限りなく少なくなっている状態にある。入居者様の中にも外出を好まれない方が多くいる		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様からの要望には事務所を通じて対応できている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族よりの手紙の受け渡しや場合によっては、読み聞かせの対応を行っている。ご本人要望がある場合には、要望に合わせ対応を行う		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	時間帯に合わせカーテンの開閉を行い日光を取り入れ気候に合わせ窓の開閉を行い外気を取り入れてるようになっている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自立されている方は、自由に過ごして頂いている。その他の方については、特定の場所を馴染みの場所に出来る様に対応している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の導線や意向の確認をしながらご本人が使いやすいように配慮を行っている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内の入居者様一人ひとりんぼ導線を意識し不必要な物を置かないように配慮している		